

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北海道室蘭市			代表者名	青山 剛
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	ICT推進課	連絡先電話番号	0143-25-2712
担当者役職	主任	担当者氏名	澤田 将	連絡先E-mail	
住所	051-8511 北海道室蘭市1-2				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	RPA等を通じたDX推進支援事業
概要	RPAの活用・DX・オープンデータ・セキュリティ（三層分離）・業務効率化に関する情報共有と、他自治体の先行事例を通じた助言をいただきたい		
支援を求める分野	オープンデータ EBPM 人材（DX推進のための機運の醸成）自治体セキュリティ RPA導入		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻		
	令和6年9月25日	支援・助言	13時00分	15時00分	
				活動時間（分）	120

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	本多 康幸
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	RPAを導入している道内自治体間の意見交換・学習の機会を、さらに発展させる取り組みと位置づけて、本年度第3回目を開催した。今回は、6の自治体から参加があった。庁内DX手順書にも記載されているEBPMの推進について議論を行った。各自治体の状況の意見交換を行い、課題の共有を行った。本多氏から、それに対する、手立て（解決方法）や事例の紹介を行っていただき、その点についても議論を行った。一貫して議論のコーディネートを担当したアドバイザーである本多氏が行ってくれ、建設的な議論ができた。開催の都度、講演して下さる自治体職員も多種多様であり、アドバイザーの人脈により、参加自治体にもいい刺激が与えられていると考える。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	15人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	2	0	13	
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	EBPMの推進について ・庁内における、EBPMの推進体制の確保や、データの活用方法について ・オープンデータや、内部データ等の基盤形成方法について				
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	EBPMに対する理解を深め、意識していなかった課題の洗い出しや、内部での説明を円滑に進めるためにEBPMをどのように利用するとよいのかを明確にする				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> EBPMに関する国やDX手順書での位置づけ 自治体での推進状況や事例の共有 	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> オープンデータを活用して、まずEBPMっぽいことをやってみる。やってから、必要なデータとはなにか？を明確にし庁内のデータ基盤を作成していくこと また、データ基盤を形成していくためには、システムからCSVエクスポート等が必要であり、そのために、RPAを活用することができるという点 EBPMを目的にせず、EBPMによってもたらされる効果を見据えて、目的をはっきりさせること 各自治体のオープンデータに関する対応方法について情報共有することができ、行政情報の副産物として公開する（もしくは、公開することを前提に内部業務を整理していく=BPR）ことの重要性について共有できた。 	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	④予算以外で、今後取組む事項がある
	<ul style="list-style-type: none"> 講演内で紹介いただいた事例 	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 今回得た知見を庁内にどのように浸透させて、展開していくかの方針までは時間の制限議論することができなかった。今後予定している支援の中で議論したいと考える 	
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>意見交換に先立ちアドバイザー作成の状況調査アンケートを行った。各自治体担当者の関心の高さが伺え、情報交換に大いに役立った。</p>	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	デジタル人材の育成に着手し、RPAや自治体DXを推進できる職員を育成したい	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	庁内のデジタル人材が、縦割りではなくプロジェクト単位で各課の業務に関与し、多くの市民がオンライン申請により手続きが完了できる状態など、地域全体の情報リテラシーの向上を目指したい。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

